彼がないから……

高風

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

彼がいないから……

【コード】

N08280

【作者名】

高凧

【あらすじ】

いつも一緒だった彼がいなくなったら、少女はどんな結末をむかえるのだろうか？

私はあの日まで、彼がいることが当然だと思っていた。
彼はいつだって私と話してくれて、遊んでくれて、近くにいてくれたから。

それなのに彼はもう、この世にはいない……

あの日、彼は交通事故にあった。

風邪で休んでいた私は詳しい経緯は知らないが、相手の不注意だったということだけは聞いた。

すぐさま病院に向かった。自分が風邪ひいていることなんか気にしてなどいらなかった。

病院に到着したときには、もうすでに彼はこの世を去っていた。現実が信じられなかった。前の日まで元気に日常を過ごしていた彼がもういないなんて現実が……

それから私はただ暴れた。助けくれなかった医者に、思いつく限りの罵声を浴びせた。首をしめて殺そうとさえした。

覚えているのはそこまで。気づいたら病院のベッドに寝かされていた。多分、何かが原因で気絶でもしたのだと思った。

少し寝たからなのか、そのときの私は冷静だった。改めて今の現実を認められてしまうくらい冷静になってしまっていた。

だから、私は泣いた。泣いて、泣いて、泣き続けて、唐突にそして理不尽に彼の命を奪ったこの世界を呪った……

彼が死んでからの私は生きていることが辛かった。

それでも我慢していたのは、彼は自分で命を絶つような行為は決して認めないからだ。

彼はもういないのに、彼に嫌われることを私は恐れていた。

それが辛くても生き続けていた理由だった。

だが、私は彼の部屋であるものを見つけてしまった。

きっかけはきつとそれだったのだと思う……

私が今いる場所は、あの病院の屋上だ。ここで何をできるかなんてもう言うまでもないだろう。

彼の部屋であんなものを見つけなければ、私はこんなことをしようとは思わなかったかもしれない。

私が見つけたものは、ラブレターだった。

彼の正直な気持ちがそこには書いてあった。そして、最後にはこう書かれていた。

“俺の気持ちを受けとってくれ。沙耶”

これを読んだ私は、何かが壊れてしまった。

彼のもとに行きたいと思った。

今の私は一度でもそう思ってしまったら、気持ちが止まらなかつた。

そうして、私は今ここにいる。

後はもう、一つの行動をとるだけ。

不思議と不安はない。むしろ彼のもとに行けると、喜びを感じているぐらいだ。

やっぱり私は壊れたんだなと思う。

そして、私は……

「昇、いまいくね……」

end

(後書き)

この作品は二作目になります。

前回の作品は短編にしては長くなってしまいましたので、今回は短くしてみました。

話がよくわからなかったらすみません。

次の作品にいかしたいと思っているので、感想やコメントがありましたら是非いただけるとうれしいです。

最後まで読んでいただきありがとうございました。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0828o/>

彼がないから……

2010年10月19日21時47分発行